

県南支部だより

平成 24 年 8 月 20 日発行 創刊号

発行責任者： 県南支部長 白石 満

発行者： 事務局長 田村 功

【講演会】が開催されました



吉田欣史 先生

去る 8 月 11 日(土)に太田西ノ内病院 5 号館・研修センター会議室 2 において、シスメックス・ビオメリュー株式会社・臨床マーケティング部の吉田欣史(よしだよしふみ)先生をお招きして「細菌検査における全く新しい同定法について・一質量分析計の基礎～応用・実用例～」と題した講演会を開催いたしました。

吉田先生は質量分析のエキスパートで米国留学後、遺伝子研究用試薬、質量分析計の最大手を経て、シスメックス・ビオメリュー社に入社しており、その間、平成 16 年に発症者が多発したスギヒラタケ脳症の原因追求を国立医薬品食品衛生研究所等と共同研究をされ、現在も厚労省や経産省のワーキンググループ・メンバーとして活躍中であります。

講演会は加藤幹事の総司会で開会され、生田目副支部長の座長で始められました。先生の講演は



「質量分析とは何ぞや」という基礎中の基礎からお話いただき、身近なものでは、水道水、野菜、輸入果物等の残留薬物検査でいつもお世話になっていることを優しく丁寧に解説して頂きました。特に平成 10 年に起きた「和歌山ヒ素カレー事件」で毒物の検査、調査の必要性が再認識され、質量分析装置が世の中に普及していった事なども紹介されました。



座長：生田目 副支部長

質量分析計の応用としての細菌同定法は、平成



14 年にノーベル化学賞を受賞された田中耕一博士の「ソフトレーザー脱離イオン化法」が医療分野に応用されたもので、そういった意味では田中耕一博士の失敗中の大発見がなければ、生まれて来なかった方法なのだそうです。細菌にマトリックスという混合物を混ぜ、レーザーを照射するとタンパク質だけがイオン化して飛散し、少し離れた場所で検知すると、タンパク質の質量の違いで到着時間が異なるのだそうです。これを利用する



と、どの程度の質量のタンパク質が含まれていたのかが分析可能となり、細菌に含まれるタンパク質の内、リボゾーム内のタンパク質だけを狙って分類できるようにして、細菌の同定が可能になっているのだそうです。現在、約 600 種類の菌を分類できるそうですが、耐性菌との区別、毒素の有無などは現時点では難しいとの事です。しかし、間もなく開発されそうだと仰っておられました。

先生には約 2 時間に渡って、難しいお話を優しく、優しく解説していただき、多数の質問にもきちんとお応えいただき、本当にお世話になりました。次の機会がありましたら、よろしくお願い致します。

またこの様な講演会を開催いたしたいと思いますので、会員の皆様の多数のご参加をお待ち申し上げます。

【暑気払い】で暑さを吹っ飛ばす！



講演会終了後「竜宮城・西ノ内店」にて、講師の吉田先生をお招きして、平成 24 年度の暑気払いが開催されました。

あいにくの豪雨の中、「竜宮城・西ノ内店」に約 22 名が集合し、菅野幹事の名司会の基、武藤副支部長の開会の挨拶、支部長挨拶の後、田村事務局長の乾杯の発声とともに、暑さで疲れ切った身体にアルコールという癒しを注入し、邪気を追い祓うのでありました。



公立岩瀬病院さん



宴もたけなわになった頃より、講師の吉田先生を始め、各施設、卸の会員さんも含めて、各施設の自己紹介が開始され、その話の上手さにみんなで大笑いをしながら楽しいひと時を過ごしました。



原田 幹事



生田目 副支部長



増子 前支部長

飲み放題 2 時間の後、原田幹事のお開きを一本締めで締めて解散となり、各自にて 2 次会へと郡山駅前に向かうのであります。

みなさん、たいへんお疲れ様でした。
また、楽しく呑みましょう！



夏草や兵どもが夢の跡

